

新社会

つくば

発行：新社会つくば

TEL 029-857-1154 FAX857-1254

金子 かずお気付

kaneko@max.hi-ho.ne.jp

<http://kanekokazuo.hakurakuryo.org/>

2020年 4月14日 第1162号



(つくば市役所正面)

つくば市の調査から 新型コロナウイルス影響あり

新型コロナウイルス感染症の大流行による事業への影響調査を行っていたつくば市は、開催された議会・全員協議会で市商工会員を対象とした影響調査で「影響があった」と調査内容を発表した。

影響調査では3,236事業者中「影響があった」とした回答事業者が57%、393事業者に上り、業種別では、飲食・サービスが69事業者で最も多く、続いて小売りが61事業者と続き、影響の程度では「売り上げが20%~50%低下」が42%と最多だった。現時点では特に無いも211事業者あった。

このままの情勢が長期化した場合どのようなことが考えられるかの問いには、「従業員の解雇」「取引方法の変化」「廃業」と続いた。

宿泊者&飲食店の 一部の費用負担を予算化

つくば市は現在20名の新型コロナウイルス感染者が公表されていますが、体調の回復と医療的ケアについては十分な支援が必要であります。つくば市は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、市内の宿泊施設や飲食店への予約キャンセルが増えていることに鑑み、市内のホテルや旅館の宿泊者や市内で飲食できる食事券を補助する緊急対策を3月議会最終日に採択していますのでご利用ください。

医療崩壊を防ぐための公共施設の提供

医療崩壊とは、医療安全に対する過度な社会的要求や医療への過度な期待、医療費抑制政策などを背景とした、医師の士気の低下、防衛医療の増加、病院経営の悪化などにより、安定的・継続的な医療提供体制が成り立たなくなる、という論法で展開される俗語であります。新型コロナウイルスの感染が急速に拡大した国々では、医療従事者や医療器具が不足、重症者の治療に手が回らなくなった。このような状態を医療崩壊と表現するようになりました。

新型コロナウイルス感染拡大による医療崩壊を防ぐためには、無症状や軽症の患者の病院以外の施設での受け入れが必要となり、全国の地域で即座に実施できる取り組みとして自治体が保有する公共施設を活用した試みも大切な行為と思えます。

議会報告・一般質問から

質問・金子かずお議員

金子かずお議会報告

子どもの青い羽根募金について ②

質問・金子かずお議員



ここに、「だれでもおいでよ みんなの食堂」ということで、つくば市のこども未来室がつくったものだと思います。私は、このように大々的な形でやることは、周知をしていくこととしては非常によろしいのではないかなと思っていますけれども、このパンフレットをつくるに当たりまして、つくる前と比べて大きな変化があったのかどうか、その辺あれば教えていただきたいと思っています。

答弁・保健福祉部長

子ども食堂につきまして、どういう場所で行っているのか、そういうことのお問い合わせ等がございまして、あとは実際やっている様子などの写真も含めて、このパンフレットをつくりまして、どういった場所で行っているのか、そして問い合わせ先はどこなのかというのがわかりやすくできるような資料として、このパンフレットを用意したものでございます。

大変知られている場合とそうでない場合とあるかもしれませんが、また、なかなか知らせるということも非常に難しい部分があるかもしれませんが、そういう意味では、こういうパンフレットというのは大変重要だと思っています。

そういう点で、創設をして、これまでの取り組みとそれから今後の取り組みという形になると、相当頑張っていくことが大変重要だと思いますので、引き続き奮闘していただきたいと思います。お願いをしておきます。（おわり）

（この質問は昨年の12月議会で取り上げたものです）

2019年4月1日、つくば市に子どもの未来を支援するための新しい仕組みとして、「つくばこどもの青い羽根基金」の取り組みが創設されました。

寄附金は、NPOなどが運営する学習支援事業や子ども食堂を開く団体への補助、経済的に困難を抱える家庭の中学3年生を対象にした学習塾代助成といった子供の未来支援事業に充当するとしています。

市民の皆様からのご支援をお願いします。今年度当初予算に3事業の経費を計上されており、寄附した人には青い羽根を贈るとしています。